

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101052		
法人名	株式会社 角八雲園		
事業所名	グループホームウェル・アイ		
所在地	島根県松江市山代町421-1		
自己評価作成日	令和4年2月16日	評価結果市町村受理日	令和4年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosoCd=32](http://2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosoCd=32)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白湊本町43番地		
訪問調査日	令和4年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

廊下やホールが広めにとっており、車椅子や歩行器でも安全に行動できます。一日の流れはおおよそ決めてはいますが、ご利用者お一人おひとりの状況に合わせ自由に過ごしていただいています。習字の会は月一回定期的に行い、そのほか毎月季節に応じた行事を開催しています。季節に応じた作品を制作し、ホールなどに掲示することで、達成感を得ていただいています。その日に話題に上がった料理やお菓子をクッキングレクなどを通し臨機応変に提供することで、喜んでいただいています。このようにGHウェル・アイでは家庭的な雰囲気大切にしながら暮らしていただく事を大切にしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な雰囲気で暮らせることを大切に、利用者一人ひとりを尊重し、思いや状態に沿ったケアができるよう努めている。身体拘束については新たな試みを行い、気づきや問題点を引き出すことで職員の共通認識を深め理解して支援している。コロナ禍で外出や面会など多くの制限がある中でもこれまでの支援が継続できるよう取り組んでいる。毎月の季節の行事は全職員で計画し、夏祭りや敬老会はゲームや飲食ブースを設けたり職員の寸劇など祭りの気分を感じてもらえるようにと工夫して行い、利用者、職員共に楽しむことを心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年度末理念の見直しを行っており、ご利用者一人一人が尊厳を保持し安心して生活出来るよう支援している。	毎年理念の振り返りを行い、情報を共有し、利用者一人ひとりを尊重した対応を心がけ、安心できる生活に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年はコロナ禍のため地域との繋がりが持てなかった。	コロナ禍のため日常的な交流や来訪はなかったが、書道の先生より毎月お手本をもらい練習を行っていて関わりが継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は認知症予防教室「ワンデーサロン」中止、機関紙「ひだまり」を発行し、認知症への理解や支援方法を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では評価結果やサービス状況、拘束ゼロへの取り組みについての検討会の報告を行うとともに、各委員からの忌憚のない意見を頂いている。「玄関での面会は寒い」とのご意見ありストーブ購入。	市職員や家族代表、地域からの参加は継続して協力が得られており、報告や意見交換をしている。提案を受けてストーブ購入をするなどサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	解らないことは市の担当者に相談して問題や課題の解決を図っている。運営推進会議に出席された方にはサービスの実情をお伝えして意見をいただいている。	運営推進会議で実情を伝えて意見をもらったり、わからないことがあれば相談し問題の解決に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員はマニュアルを周知し、3か月に1回、拘束虐待委員会を設けている。身体拘束に繋がりが兼ねない不適切ケアについてフィッシュボーンシートを使い事例収集し検討をしている。	定期的な話し合いや申し送りで情報を共有している。拘束に繋がりがかねないケアについて新たにフィッシュボーンシートを活用し、気づきを出し合い理解してケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在虐待はないが、研修を通して、身体的虐待はもとより心理的虐待への理解をさらに深めて行きたい。3か月ごとの不適切ケアに関する話し合いも虐待防止の観点からも役に立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要なケースがあれば、管理者が中心となって各方面と協議し支援につなげる方針だが今のところ事例がない。職員には、研修会参加等で学ぶ機会が得られるよう配慮したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者や家族に丁寧に説明して不安や疑問を解消し、理解納得を図っている。看取りに関する指針を契約時に説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族代表が毎回運営推進会議に出席し忌憚のない意見が出されており、運営に反映している。普段から日常的に口頭で意見をいただいているが意見箱への投入がないので家族アンケートを実施下。	面会制限があり直接声を聞く機会は少ないため、アンケート実施や運営推進会議での代表家族の意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と管理者は月1回の管理者会で意見交換をしている。管理者は日頃から職員の意見や要望、提案をきいており、この会で検討する等して運営に反映させている。	職員同士の関係が良好で、日頃から気づきを話し合っ管理者に伝えている。意見や要望は会議で話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業者は給与水準や遣り甲斐等、職員が向上心をもって就業できるようキャリアパスを整備している。休憩室の完備、希望休の取得等働きやすさにも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修の実施。外部研修の参加を推進し、復命研修を通じて全職員に周知しているが、今年はコロナ禍であまり参加できていない。新人にはOJTによるトレーニングをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会で意見交換をしている。他施設への体験希望あり検討予定。GH部会等への参加でネットワーク作りを行っているが今年度は部会がなかったためできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前から、面接や情報提供書により、不安や要望を把握している。利用初期は担当職員が一对一で寄り添い、安心して過ごせるよう配慮している。気づきは全職員で共有し信頼関係の構築にやくだてている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、ケアマネージャーが中心となって、家族の話を聞き不安や迷い、困っていることを受容している。要望や情報は速やかにケアにつなげており、本人様の様子はは密に伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用時の相談に応じて支援内容を具体的に説明し、時には行政、包括支援センターや他事業所の協力をもとめ、適切なサービスの選択を支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行ったり、相談しあって行事の準備をすすめている。利用者と職員は常に協同して生活をしている。若い職員は昔の暮らしぶりなど学ぶことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用当初から受診はご家族の役割としている。面会時や電話、請求書のお便り欄を利用してご本人の要望を代弁し、対応を相談している。ミニ通信を発行し情報提供や行行事報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別活動で馴染みの場所へドライブに行ったり、自宅で過ごし近所を散歩したりしている。	馴染みの場所に出かけたり、帰宅の際には孫が集まり一緒に過ごす人もあり、一人ひとりに合わせて関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立せず良い関係が築けるよう席の工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退所された際は葬儀に参列している。今年にはコロナ禍で出来ていないが退所後後面会に行っていた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日頃の会話の中で希望や意向を把握している。ことばにされないかたの場合は、表情や態度からくみ取る努力をしている。それも難しい場合は、ケア会議で本人本位に検討している。	日頃の会話や表情、態度から意向の把握に努めている。食べたい、出かけたいなど、思いは本人本位に検討し可能な限り支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規利用時、既担当CMから情報提供を受けるだけでなく、家族や関係者から生活歴や暮らし方等についての情報を得ている。会話から得られるご本人からの情報も大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃のかかわりの中で知り得た情報はケア会議や送りノートにより全員が共有する。申し送りや職員伝達によってリアルタイムでの情報共有を大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を踏まえて全職員でカンファレンスを行っている。それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成し、モニタリングは毎月のケア会議で行われている。	利用者、家族の思いを共有して職員全員で話し合っている。毎月のケア会議でモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、職員の気づきや工夫を個別に具体的に記入している。書き方の勉強会を実施。用紙検討中。職員はいつでもこれを見て情報を共有できケアや計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今はニーズが無いので出来てはいないが、新しいニーズには対応していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	要望に沿って散歩や買い物に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くの利用者が嘱託医をかかりつけ医に希望し、24時間の対応が得られている。それ以外を希望する場合も、病状悪化時は上申してアドバイスをもらえるなど適切な医療が受けられるよう支援している。	事業所のかかりつけ医と協力関係を築き、定期の訪問診療や訪問看護で継続して適切な医療が受けられるよう支援している。外部受診は家族の協力や職員の同行支援もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用しており、介護職員は日々の気づきや情報を提供したり、処置の仕方の指導を受けたり、個々の利用者が適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関へ情報提供を行い、適切な治療が受けられるよう配慮し、病状説明やカンファレンスに出席して早期退院への協力を行っている。退院時には医療関係者と連携して支援計画を見直している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に同意を得ている。現状に合わせて話し合いながら方向を決定し方針は共有している。	入居時に事業所のできることを伝えている。利用者の状態に合わせて関係者で話し合いを重ね、方針を共有して終末期支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年は蘇生訓練ができていないので必要。急変時の対応についてホーム内研修を行って万が一に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月『防災の日』を設定し利用者や防災について話し合い、避難訓練、消火訓練を繰り返し実施している。近隣に協力員体制があり、地域の協議会との連携もある。	事業所独自に「防災の日」を設定し利用者と共に話し合いや訓練を継続して行っている。備蓄品は防災委員が定期的に確認して、土鍋でご飯を炊くなど試みもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周辺症状が強くて出ている時に、安全や保清の観点から行動の静止や強制をさせていた だく事があり、職員は心を痛めているが、概ね丁寧な言葉かけを行い一人ひとりを尊重しプライバシーを大事にしている。	一人ひとりを尊重した対応を心がけている。 状態に合わせて筆談やジェスチャーも含めコミュニケーションの取り方も考慮しながら丁寧な言葉かけを行いプライバシーを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示困難者については、表情や態度から察し、何をどうしたらいいか、何が欲しいか、複数の選択肢から自己決定を促す工夫をしている。飲み物、服等は選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休養、製作物やトレーニングなどの希望表出を促し対応しており、日課の流れよりも個々のペース・体調に合わせ、希望に沿った時間を過ごしていただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服を自分で選んでもらったり、不十分な所や乱れをさりげなく直したり「素敵ですね」「いい色ですね」等の称賛やアドバイスを行い、意欲を失われないよう配慮している。マニキュアはとても喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備も片付けも個の力に応じて協働して行う。季節感重視の献立を家庭用食器で提供しており、利用者は毎回楽しみにしている。誕生日の希望メニューや行事食は特に楽しみとなっている。	利用者の力に合わせて準備や片付けを一緒に行っている。希望メニューの取り入れや、状態に合わせてとろみ付けや裏ごしにするなど食事形態も工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はバランスよく、個々の状態に合わせた形状で提供している。お茶事の時間をつくりたり種々の飲み物を用意してこまめに促すなど水分確保の工夫もしている。摂取量の少ない方には補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを徹底している。全利用者に、全介助もしくは声掛け、磨き直しを行い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	つかまり立ちが出来る方には出来るだけトイレでの排泄を支援している。トイレ使用が困難な方でもPTイレを使用したり、紙下着の種類を検討する等、一人ひとりに合わせた排泄支援を行っている。	可能な人にはトイレでの排泄支援を行っているが、ポータブルトイレの使用や昼夜でパットの種類を変更するなど、一人ひとりの状態に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を十分取り入れた食事を提供し、日課に体操や運動を取り入れ、なるべく自然排便できるよう配慮している。排便チェックを行い排泄のタイミングを逃さない支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望を聞きながら対応し、入浴剤やヨモギ湯、ゆず湯等楽しんでいただいている。時には風呂で一緒に歌を歌ったりすることもある。	希望に沿った入浴となるよう声かけしながら支援している。ヨモギやゆず湯など季節を楽しめるような工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室なので好きな時間に休息したり邪魔されることなく安心して眠れる環境であるが、夜間など一人をさみしがられることもあるので、時には一緒に過ごすこともある。温度、湿度調整に気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬状況を周知しており、用法や留意点、副作用についても把握している。利用者の症状に変化があれば医師に伝達し処方方を再検討してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野で、可能な手伝いをお願いし、感謝の言葉を返すようにしている。飲み物の嗜好や楽しみな事を把握し活動に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	短時間でも、戸外へ出る機会を作っているが外出の希望はあまりない。希望に応じたドライブなどは大変喜ばれている。本人の希望を家族に伝え、家に帰られることもある。	ベランダで日光浴したり、周囲の散歩など外気に触れる機会を作っている。家族の協力を得てドライブに行く人もあり、希望を聞きながら支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	苑での夏祭りの際、現金を渡し買い物を楽しんでいただいた。希望があれば買い物支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使用は可能。電話はいつでも自由に掛けられるし、頼まれればダイヤルを回したり取り次いだりしている。来文書は手渡して読んでもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節の花や利用者の作品を飾らせてもらっている。食堂や居室、浴室やトイレ等清掃を徹底し、清潔を心掛けている。懐かしい流行歌を流す等、居心地良く暮らせる工夫をしている。廊下にもソファを置き、休めるようにしている。	利用者と一緒に制作した飾り付けや花で季節を感じられる空間づくりをしている。コロナ禍であり特に消毒や清掃、加湿や換気に気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でソファでくつろいだり、テラスで日光浴を楽しんだり、他者と一緒にお茶を飲んだりしていただいているが、ご利用者だけではコミュニケーションがとりにくいことも多く、職員も加わることが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族は本人に合わせて家具や時計等を持ち込まれており、職員は壁を飾るなど居心地良く暮らす工夫をしている。本人の混乱を防ぐために壁にメッセージを貼っている。	希望の物を持ち込んで、使いやすいよう家具を配置して居心地よく過ごせる居室づくりをしている。ホワイトボードやメモ帳にメッセージを書いて思い出せるよう工夫している人もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の利用者の、出来る力やわかる力を把握して、個室への道順やトイレ表示を貼る等、不安や迷いの軽減のために工夫をしている。		